認定NPO法人マドレボニータ　2018年度 年次報告書

2018(平成30)年10月–2019(令和元)年9月

2019年5月18日　『Madre Bonita DAY 2019 ～NECワーキングマザーサロン10年の軌跡　ありがとうとこれから～』にて撮影

《目次》	ページ
・代表よりご挨拶	1
・2018年度のおもな出来事	2
・教室事業	3-9
・養成事業	10-11
・研究開発事業	12-16
・会員事業	17
・マドレ基金	18-21
・広報　メディア掲載実績	22
・財務状況	23-24
・ご寄付のお願い	25

代表よりご挨拶

進化・成長を繰り返して

2019年10月より認定NPO法人マドレボニータは13期目に入りました。2018年10月～2019年9月までの年次報告書をお届けします。この年次報告を見ていただくと、昨年度の活動の全体像がわかります。マドレボニータをよく知る方々からも「こんな活動もあったんですね」「意外と全体像は知らなかった」とご感想をいただきます。「組織は生き物であり、一人一人はその一部でもある」ということを、2019年を通して「ティール（進化型）組織」の勉強会で学んできました。マドレボニータという組織も、進化・成長しています。ぜひ、この報告書にゆっくり目を通していただき、進化・成長を感じていただければ幸いです。

新しいパラダイム

2018～19年にかけては「すべての母に産後ケア」と謳うことをやめ、「すべての家族に産後ケア」に方針を拡大して活動を推進した年でした。「子育ての主体は『ママ』だけではない」ということを意識化すると、家事や育児の担い手は女性であるという「無意識の思い込み」がいかに社会に根強く刷り込まれているかを思い知らされます。私たちは、新しい時代が出現する一端を担いながら、変化の証人でもあります。マイノリティの人権、子どもたちに残す地球環境といった問題も身近に迫り、見過ごせなくなってきた今、私たちの持つ可能性を感じています。

NPO法人マドレボニータ
代表理事　吉岡マコ

アメリカンエキスプレス
リーダーシップアワード
を受賞した
ワシントンD.C.にて

〔事業報告〕2018年度のおもな出来事

ティール組織勉強会
昨年度に実施したクラウドファンディングのご寄付を活用し、アクティブ・ブック・ダイアログという手法で「ティール組織」を読み解く勉強会を1年かけて開催中です。

リーダーシップアワード
「アメリカン・エキスプレス・リーダーシップ・アカデミー」の卒業生から選出される「アルムナイ・アワード」を代表の吉岡が日本人で初受賞しました。

クラウドファンディング
マドレ式対話の場づくりプロジェクトの為のクラウドファンディングに挑戦。ボランティアメンバーを含む広報チームで目標達成に向け取り組みました。

活動報告会
7月7日に初の活動報告会を開催。進行中のプロジェクトの報告や展望をお話し、ご参加の皆さんとディスカッションを行いました。

Run with Heart

東京マラソン2020チャリティ
2020年3月1日(日)に行われる東京マラソン2020のチャリティ寄付先団体にマドレボニータが選出されました。

インストラクター養成
産後セルフケアインストラクター11期生が2018年11月・12月にデビュー。2019年は宮澤千尋さんがボールエクササイズ指導士としてデビューしました。

マドレボニータは、東京マラソン2020チャリティ事業の寄付先団体です。
▶東京マラソン2020チャリティ公式ウェブサイト https://www.marathon.tokyo/charity/ ▶マドレボニータ特設サイト https://www.madrebonita.com/marathon

〔事業報告〕教室事業 ①教室運営

事業目的
母となった女性が、産後のリハビリに主体的に取り組める場を提供する

2018年度 活動報告

開催実績

定期開催数：529回 （前年比+16／103% ） 受講者数：3,077人（前年比-282／92% ）
全開催数 ：1,179回（前年比+81／107%）受講者数：8,572人（前年比+594／107%）

2018年度は産後セルフケアインストラクターが6名誕生し、「産後ケア教室」が関西でも開講しました。産後ケア教室卒業生と初マドレボニータの参加者双方が参加できる「産後のバランスボール教室」の開催が好調です。ただ、産後ケア教室・マタニティケア教室の満席率が低下し、開講数は横ばいなものの、受講者数が減少してしまいました。政府予想を上回る急激な出生数の低下や異常気象不安からの外出自粛などの原因も考えられますが、広報メディアや伝え方の工夫などの改善の余地があると考えています。その他の単発講座の開催数・受講者数は増加し、多様な形式、場で産後の心身のリハビリに取り組める方が増えています。

産後ケア教室 16都道府県

346コース（前年比+2ｺｰｽ／101%）／2,111人受講（前年比-367人／85%）／満席率73.6%（前年比-6.2）

マタニティケア教室 2都県

16コース（前年比-1ｺｰｽ／94%）／71人受講（前年比-29人／71%）／満席率40.8%（前年比-11.8）

産後のバランスボール教室 6都道県

167回 （前年比+15回／110%）／895人受講（前年比+114人／115%）／満席率*63.7% *2018年度より計測

単発講座 ※産後のバランスボール教室のぞく

650回（+65回／前年比111%）／5,495人受講（前年比+876人／119%）
└■産前･産後女性対象 ■産前･産後カップル対象 ■教室卒業生対象
■インストラクター志望者･子育て支援関係者対象 など

オンライン版
「踊れるからだづくり」2シリーズ
受講者数144名も含みます

〔事業報告〕教室事業 ①教室運営

2018年度 活動報告

■産後ケア教室への導線づくり

産後ケア教室の認知経路は「友人・知人の紹介」が約半数を占めますが、それ以外の導線が複数用意できることが、団体として活動している強みでもあると考えています。今年度も自治体のバウチャーや単発講座、産後ケアバトン制度、法人提携（次ページ参照）など教室事業部で実施またはサポートした活動を通じて「4回コースに参加しよう」と思ってくださった方がいらっしゃいます。導線の数をさらに増やし、またそれぞれを太くしていくことが求められます。

■オンライン版踊れるからだづくり講座

www.madrebonita/onlineodoreru

産後のリハビリ後も、そこから続く人生も、底支えしてくれるのは体力！さらに大人になってもチャレンジの機会をということで、オンライン版での踊りの講座を2シリーズリリースし、のべ144名に受講いただきました。事務所がなく、スタッフも全員がテレワーク、大半が幼い子どもを育てながら活動しているマドレボニータらしく、場所や時間の制約を受けないプログラム提供が実現しました。

2018年度産後ケア教室への導線

2019年度 活動計画

引き続き教室申込や各種サービスの利用促進のため、SNSでの発信を継続・計画的に行います。SNSでは広告出稿も検討中です。また申込状況をタイムリーにみて必要な発信もできるよう、メンバー間で連携していきます。「オンライン版踊れるからだづくり講座」も引き続き提供中です。お申し込みをお待ちしております！→→→→→

〔事業報告〕教室事業 ②企業推進

事業目的
母となった女性が、産後のリハビリに主体的に取り組める場を提供する

2018年度 活動報告

法人を対象とした「復職支援プログラム」

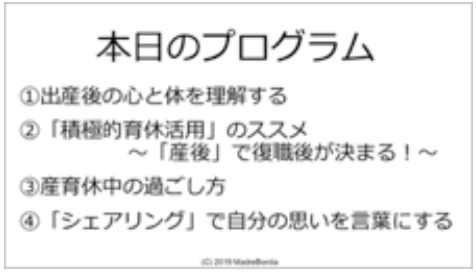
公式サイト内紹介ページ
https://goo.gl/UgfcxE
ご紹介に活用お願いします！

■「企業を産後ケア普及のインフラにする」ために「復職支援プログラム」を推進

①社員や配偶者が産む前に「産後」について知る	社内講座の実施	開催数 7社(8回)	受講者数 123名
②社員や配偶者が「産後のリハビリ」に取り組む	産後ケア教室 受講料補助	法人数 8社	受講者数 102名

■事例：トーマツ健康保険組合＆デロイトトーマツグループ共催での産前講座

- 約5ヶ月ごとでの継続的な開催で、産休に入るタイミングに合った受講を実現
- カップル参加を推奨。配偶者が社外でも参加しやすいように平日夜開催
- 健保とDiversity&Inclytion部門が連携、積極的な社内広報で参加者・カップル参加ともに増加傾向



2019年度 活動計画

好評の「産前講座」を出産のタイミングや勤務地がどこかに関わらず受講できる「オンライン版」を10月にリリースしました。多くの法人への導入を目指して営業活動を展開します。

〔事業報告〕教室事業 ②企業推進

事業目的
母となった女性が、産後のリハビリに主体的に取り組める場を提供する

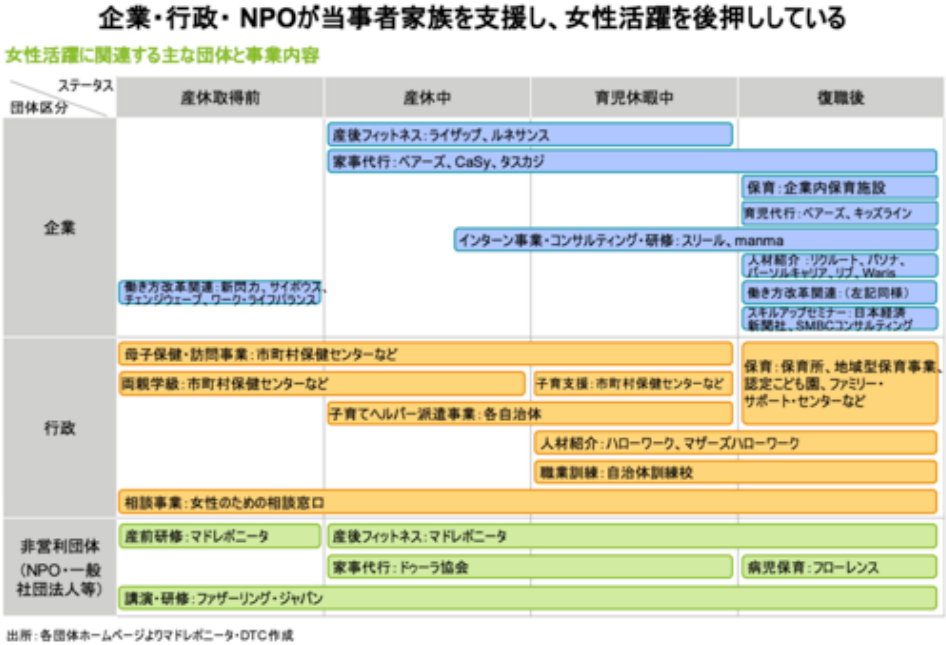
2018年度 活動報告

ETIC・JPモルガンによる支援「IMPACT Lab.」

NPO法人ETIC.主催、J.P.モルガン協賛のソーシャルインパクトの拡大に向けて、成長・拡大期にあるNPO/ソーシャルベンチャー8団体と共に進化するコミュニティ型プログラムIMPACT Lab.（インパクト・ラボ）に吉岡と林で参加しました。その取り組みの中で、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむと一緒に、デロイト トーマツ コンサルティング合同会社に協力いただきながら、2019年4月から同年6月、女性の就業継続とキャリアアップについて調査を行いました。
その結果を企業に向けた「女性の継続就業・キャリアアップに向けた提言」としてまとめ、公開しました。

プレスリリース
女性が出産後も働き続け、充実したキャリアを重ねるために企業ができることは？
出産を経た女性の活躍に向けて
～課題の可視化と企業への提言～
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000007.000036840.html

➡調査結果はこちらからご覧いただけます



出所：各団体ホームページよりマドレボニータ・DTC作成

〔事業報告〕教室事業 ③地域推進

事業目的
母となった女性が、産後のリハビリに主体的に取り組める場を提供する

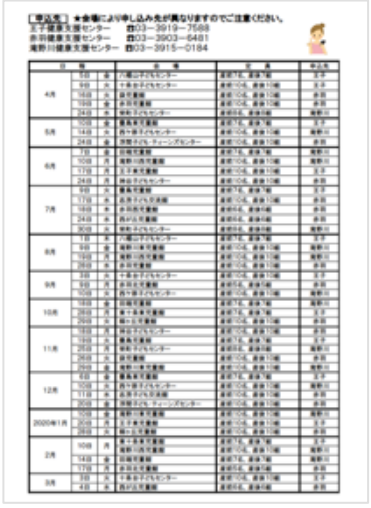
2018年度 活動報告

行政との取り組み

自治体の「妊娠期～子育て期までの切れ目ない支援」推進の動きの中でも、「取り組むケア」の自治体での実施はまだ僅かですが、実施されている自治体の継続率は高く、実施回数を増やしていただける傾向にあります。今年度は関西の自治体でも実現しました！

■ 東京都北区（継続・5年目）

年間45回開催。妊婦・産後女性一緒に受けられる講座であること、区内まんべんなく20の児童館を巡回実施、区民の機会の公平性がはかられていることが特徴です。



◀北区さまで作成・配布されている年間予定表は開催日がぎっしり！

■ 大阪府島本町（新規）

町立人権文化センターにて産後女性向け講座（2回1クール×年間5クール）を実施。キャンセル待ちやリピート受講希望が出る人気講座に。

■昨年度より継続

神奈川県横浜市／墨田区／台東区／厚岸町(北海道)／気仙沼市(宮城県)／信濃町(長野県)など

2019年度 活動計画

引き続き既存の自治体との協働を誠実に遂行しつつ、「これからの両親学級」PJからのアプローチも活かし、自治体を通じての「産後のリハビリ」の実現を進めます。

〔事業報告〕教室事業 ③地域推進

事業目的
母となった女性が、産後のリハビリに主体的に取り組める場を提供する

2018年度 活動報告

これからの両親学級　東京都福祉保健財団助成事業

産後の女性が心身ともに健やかになり、持っている力を発揮する社会には、すべての家族に産後ケアの知識を持っていただくことが必須となります。しかし、依然として産後ケアの必要性を知らずに出産を迎え、産後の三大危機（産後うつ・乳児虐待・夫婦の不和）を引き起こすリスクを抱えるカップルがいます。このプロジェクトは、産前に産後の準備をする必要性を直接、当事者であるカップルに伝える講座を自治体と協力して行うことを目指しています。

■ 東京都の産前講座の現状

東京都内の夫婦（カップル）に対して、出産前に受講した妊娠・出産を学ぶための講座について、対象夫婦が講座をどう捉えているかを把握するための調査を実施しました。

その結果、産前講座で教わっていないことで教えて欲しかったことは下記の４つでした。

1. 授乳の過酷さや排泄の回数の多さとそのお世話の大変さ、赤ちゃんの寝かしつけの大変さや夜中に頻繁に起きることといった「赤ちゃんのお世話の現実」
2. 父親の出産時の関わり、出産直後からの育児への関わりといった「父親になるための具体的な準備について」
3. 出産後の女性のホルモンの急激な変化、体の不調や違和感、精神状態の不安定さといった「出産後の女性の心身の変化」
4. 赤ちゃんはいつ頃どのくらいの大きさになるのか「赤ちゃんの身長と体重の目安」

プレスリリースと同時に東京都内の自治体に順次レポートの送付を実施しました。
妊娠中に教わっていないことで教えて欲しかったことが判明！
対象者夫婦（カップル）からみた東京都の産前講座の現状
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000006.000036840.html

➡調査結果はこちらからご覧いただけます

〔事業報告〕教室事業 ③地域推進

事業目的
母となった女性が、産後のリハビリに主体的に取り組める場を提供する

2019年度 活動計画

これからの両親学級　東京都福祉保健財団助成事業

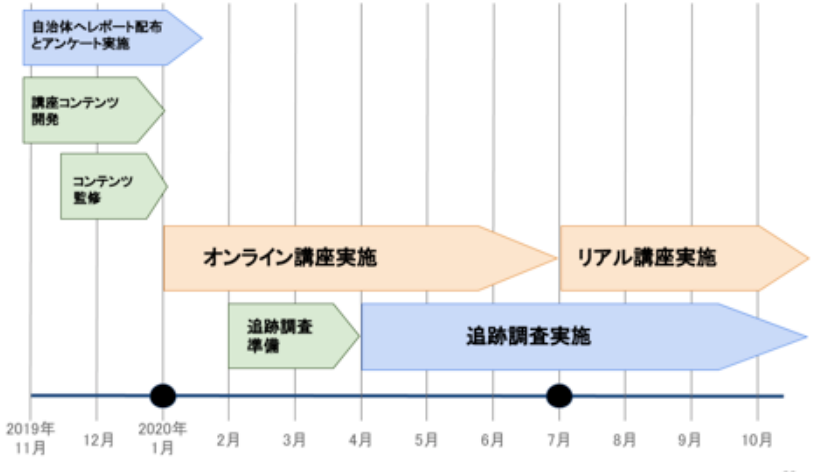
■ 東京都の産前講座現状調査を元に新たな産前講座を開発

2019年度はオンラインの講座実施、フィードバックを得て改善し、リアルの講座を実施する予定です。
講座コンテンツの構成は東京都の産前講座の現状調査を踏まえて作成、それを動画にして、産婦人科医、小児科医、助産師、子育て関連団体などの監修を経て、リリース予定です。
また、コンテンツ内外でふたり会議＊とのコラボレーションも予定。妊娠・出産を考えているカップルや夫婦からコンテンツへフィードバックをしていただく機会も準備中です。

＊ふたり会議
家事分担や育児、義実家との関わり方など
どんな結婚生活を送りたいのか結婚前に
ふたりの希望を確認できるサービスです。
https://futari-kaigi.com/

講座実施の際には、アンケートやヒアリングを実施
受講前・後・出産後と追跡して状況を調査します。

プロジェクトスケジュール



〔事業報告〕養成事業

2018年度 活動報告

事業目的　親となった人が本来持っている力を発揮できるための産後ケアプログラム指導者の育成

『2019インストラクター養成コース』実施

2018年度は「2019インストラクター養成コース」として、准認定ボールエクササイズ指導士の養成を行いました。応募者5名から選考を行い、養成コース入学者は2名。少人数ではありましたが、より充実した養成コースを目指し、試行錯誤を重ねながら実施しました。今後、より多くのエントリー者を獲得することを目指し、養成コース開講と同時に来期の準備を開始、資料請求者数は9月末時点で40名となりました。

▲2019養成コース、スクーリングの様子

『産後プログラム指導法集中講座1day』実施

2016年を最後に休止していた『産後プログラム指導法集中講座2days』を、2019年6月、1day講座として復活させました。全国で活動するインストラクターの研修の場として、そして養成コース候補生を含めた一般の方が「マドレボニータのインストラクター」を学ぶ唯一の場として、今後は継続して開催していく予定です。

▲2019/6/2　集中講座1day集合写真

『マドレキャラバン大阪＆北海道』開催

新たな地域にインストラクターを育てることを目指し、2018年春に実施したクラウドファンディングの資金で全国を巡っているマドレキャラバン。今年度は2018年11月と2019年2月に大阪でイベントを開催しました。産後の方向けのバランスボール講座、養成コースに関心がある方向けの養成コース体験講座に加え、代表吉岡の講演会を実施。まだマドレボニータの知名度が低い関西で、新たなつながりを作ることができました。

▲2019/2/16　吉岡マコ講演会

〔事業報告〕養成事業

2019年度 活動計画

2020インストラクター養成コース

2019年度もインストラクター養成コースを実施します。新たな試みとして、2020年からこれまで別々に養成していた産後セルフケアインストラクターとボールエクササイズ指導士を一緒に養成すべく、準備を進めています。エントリー・審査は3月、4月のオリエンテーションを経て、養成コースは5月開講予定です。前期に引き続き、資料請求者のみに詳細情報を提供しています。2019年12月からはメールマガジンでの情報配信をスタートしました。

マドレキャラバン　未来のインストラクターと出会う旅

2019年度も引き続きキャラバンを実施します。今年は福岡県での開催を検討中です。時期や実施するイベントについては未定です。決定次第SNSや会員メールレター等でご案内いたします。ぜひ九州方面にお知り合いがいらしたら、ご紹介ください。

▲2019インストラクター合宿集合写真

インストラクター認定制度、コミュニティーの見直し

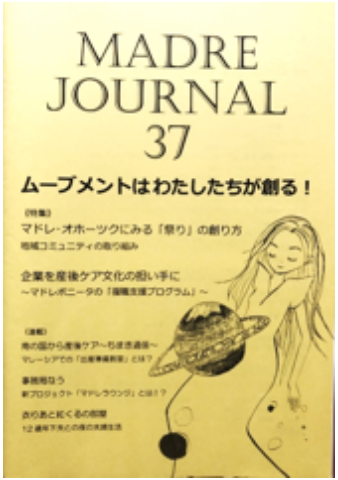
主に養成事業部認定チームが中心となり行っていた、インストラクター認定に関わる事業やインストラクターコミュニティの運営。これまでも試行錯誤を重ねてきましたが、インストラクターの人数も増え、メンバーも入れ替わり、働き方も多様化してきたことを踏まえ、見直していくことになりました。2019年9月のインストラクター研修合宿で「続ける、始める、やめる」ことを提案し合い、より自分たちらしいインストラクターやコミュニティのあり方を模索し始めました。

▲合宿で、各自の提案を書いた付箋

〔事業報告〕研究開発事業 ①出版（マドレブックス）

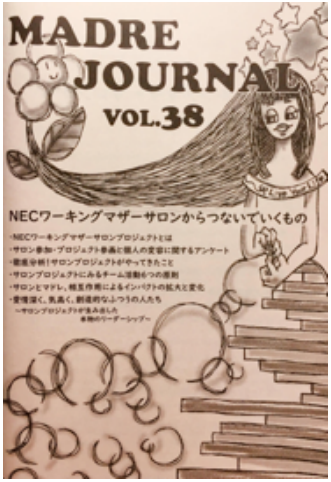
事業目的
「産後の実態」及び「取り組む産後ケア」の認知を広め、知見を深める

2018年度 活動報告



37号　2019/3/18発行
ムーブメントは わたしたちが創る！

会員さんや産後ケア教室卒業生が各地で様々な取り組みをされていますが、案外「どんなことをやっているか」をお互い知らないし、活動をもっと盛り上げるヒントを知りたい！ということで、特集では北海道の「マドレオホーツク」をはじめ各地域チームにインタビューし、活動の内容や工夫していることなどを伺いました。



38号　2019/10/11発行
NECワーキングマザーサロンから つないでいくもの

NECワーキングマザーサロンの活動成果の抽出をテーマとした特集号です。参加者・参画者アンケートのを実施するとともに、活動での全取り組みを洗い出して、その意図や成果を確認、分析する作業を実施。CRファクトリー代表の呉さんにご協力いただきました。

編集部のご紹介

今年度は、荒木朋さん、桐原沙織さん、佐治千尋さん、茂木さゆりさん、八木実樹さんが、ボランティアメンバーとして参画。仕事の休み時間や通勤時間を活用して編集・校正に取り組みました。活動は通常オンラインでのやり取りなので、発行後の打ち上げが初対面ということも！

2019年度 活動計画

38号からマドレストアでの一般販売を休止しました。「読めるのは正会員だけ」というレアな冊子になります。2019年度も2号発行予定です。39号は特集「すべての家族に産後ケアを」、40号はSDGｓに関する特集を予定しています。編集部には、伊藤明海さん・長野奈美さんが新たに加わります。

〔事業報告〕研究開発事業
②マドレストア（オンラインショップ）

事業目的　産後に関心を持つ人たちが知見を深められる
マドレボニータの一員と感じられるグッズ製作

2018年度 活動報告

会員さんと一緒につくるマドレグッズ

会員Facebookグループにてアンケートを実施し、投票結果をふまえて、「トートバッグ」では3色、「機能性レディースTシャツ」では4色の商品をリリースしました。

Tシャツのデザインは会員さんから募集しました。前面は加賀裕野さん（写真）、背面は吉岡マコ代表の応募デザインです。
とても好評で「このシャツを着てマドレの仲間と一緒に走りたい！」という声も。
「マドレゆるラン部」でのランニングイベントでも着用する人がたくさんいらっしゃいます！

書籍・商品名	目標数	販売実績数
『産後白書』シリーズ	530冊	639冊↑
『産褥記３』	60冊	81冊↑
『ワーキングマザーの教科書』	80冊	40冊↓
『マドレジャーナル』ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ	90冊	161冊↑
オリジナルトートバッグ	100個	200個↑
オリジナル機能性Tシャツ	100枚	140枚↑

▲Tシャツを着用してのランニングも。
▼背中にもプリントが入っています。　▼バッグは初の3色展開！

2019年度 活動計画

これまでレディース商品を多く展開してきましたが、今後は「家族で使える」商品をつくっていきます。今年度は男性も使えるデザインのトートバッグ、Tシャツを企画します。
ぜひリクエストやフィードバックをお寄せください！！

〔事業報告〕研究開発事業　③NECワーキングマザーサロン10周年企画

2018年度 活動報告

「NECワーキングマザーサロン」の活動が2018年12月にて休止することを受け、10年間の活動を総括し、次につなげるための新たな取り組みを始めました。

参加者・参画者アンケート調査

サロンへの参加およびプロジェクトへの参画がどのような意識・行動変容をもたらしたのか？アンケートにて調査を行いました。

活動取り組み分析

これまで行ってきたことを洗い出し、参加者・参画者の変容につながると思われる要素を導き出す作業に取り組みました。このプロセスをNPO法人CRファクトリー代表の呉哲煥さんに監修していただきました。

これらの結果は「マドレジャーナル38号」にて発表しました。

MadreBonitaDAY2019 NECワーキングマザーサロン10年の軌跡 ～ありがとうとこれから

企画チームとして12名のボランティアメンバーが参画し、イベントのプログラム内容や構成、運営まで、一からすべて創りあげました。

＜プログラム＞
第１部：「NECワーキングマザーサロン」を紐解く
　　～10年の軌跡とその魅力～
第２部：「シェアリング」
　　～対話を通して自分のおもいに触れてみよう
第３部：これからの一歩
展　示：サロン10年史 ～ありがとうとこれから～

〔事業報告〕研究開発事業　④マドレ式対話の場づくりプロジェクト

2018年度 活動報告～その１

NECワーキングマザーサロンの10年間の活動で得られた「対話のプログラム」と「場づくり」の知見とノウハウを、テキストや学びの場というかたちで公開し、市民が自主的に対話の場をつくれるようになることを目指す取り組みです。4～6月にはクラウドファンディングでの資金調達を行い、7～9月には「マドレ式対話の場づくりラボ」第1回の「夏ラボ」を実施することができました。

クラウドファンディングを実施
「マドレ式対話メソッド を次世代へ ～8,386人と育てた10年の知見」

ボランティアメンバーを含むプロジェクトチーム12名が、2～6月まで5か月にわたって取り組み、目標を達成することができました。
「マドレ式対話メソッド」という言葉は、この取り組みの中で誕生したものです。

26名の「アンバサダー」がSNSや各地域イベント等で呼びかけてくださいました。
本当に多くの方からこの挑戦を応援するメッセージをお寄せいただきました！

〔事業報告〕研究開発事業　④マドレ式対話の場づくりプロジェクト

2018年度 活動報告～その２

マドレ式対話の場づくりラボ「夏ラボ」開催

13名が参加し、7～9月の2か月間にわたって、自分が生みだしたい対話の場づくりの探求に挑みました。6時間×4日間の集合プログラムと、有志メンバーが8週間にわたる場をつくり進行できるようになるための練習プログラムに取り組みました。

第3回目（8/31）は、単発参加者を交えた「オープンラボ」を実施。CRファクトリー代表の呉哲煥氏と吉岡マコ代表とのトークセッションやグループ対話など、参加者みんなで「対話」について語り合う、熱い一日となりました。

2019年度 活動計画

2019年12月からオホーツクラボ（北海道北見市）を開催。
2020年春から、関西ラボ（兵庫県予定）、春ラボ（東京都予定）を開催します（1月告知開始）。

➡詳細は、右QRコードより「マドレ式対話の場づくりラボ」のサイトをご覧ください！

〔事業報告〕会員事業

事業目的
ミッションとビジョンの実現に向け、ともに考え、行動する参画者を増やす

2018年度 活動報告

会員数（2019年9月末時点）：正会員135名　賛助会員113名　法人会員3社

■ 会員制度の見直し

2008年のNPO法人設立以来、会員の種別、制度の改良を重ねてきましたが、2017年に認定NPO化したことも踏まえ、あらためて制度の見直しを実施しました。

■ 会員制度を考える会（2019/12/26）

事前アンケートを実施し、当日は会員の皆さんと会員制度の現状や「支援」と「参画」のあり方について対話しました。

■ マドレ合宿オープンゼミ（2019/9/7）

全国の認定インストラクターが集う合宿初日にオープンゼミを開催。マドレ会員・応援団の皆さんとダンスや学びの時間を持ちました。

■ 2017年度年次報告書・会報「マドレ通信」19号発行
■ 会員向けメールレター発行（月1回）

全国各地でイベント開催

会員の皆さんがイベントを企画してくださり、代表吉岡が全国を飛び回りました！

2018/10　マドレ・オホーツク（北海道）

2019/2　KAMP（大阪府）

2019/2　マドレボニータ栃木

2019/4　マドレボニータ東海TOMOS

2019/5　マドレボニータ@静岡

2019年度 活動計画

新年度より賛助会員の新規受付を停止いたします。

〔事業報告〕マドレ基金　①寄付全体

2018年度 活動報告

事業目的
活動への理解者・応援者を増やし、運営基盤を強化する

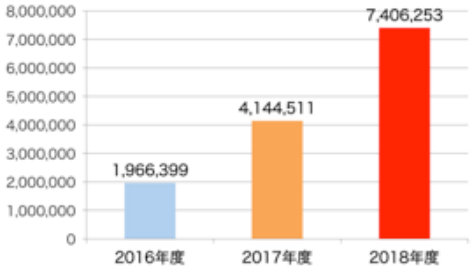
寄付総額　7,406,253円

マドレボニータは東京マラソン2020チャリティ事業の寄付先団体に選定されました。また2019年4月～6月にクラウドファンディング「マドレ式対話メソッドを次世代へ～8386人と育てた10年の知見～」を実施し、多くのご支援を頂きました。会員・マドレ応援団・教室卒業生の皆さんのご尽力により、企業からのご寄付・助成金やチャリティイベントからのご寄付額も昨年より大きく増えました。

継続的な支援者の増加を目指し、マンスリーサポーター「マドレ応援団」リーフレットを刷新。また支援してくださる方との対話の機会を増やすべくトークイベント「マドレラウンジ」や「活動報告会」を実施しました。

▼マドレ応援団リーフレット

■ マドレ基金　寄付額の推移



今年度の寄付金使途

下記の通り産後ケアの啓発と受益者拡大のために使わせていただきました。各事業の運営にあたっては、みなさまからのご寄付が大きな支えとなっております。2019年度以降も産後ケアバトン制度の継続運営や、養成コースの開催、今まで産後ケア教室がない地域への開拓を実現できますよう、ぜひ引き続きご支援をお願い申し上げます。

■ 教室事業　¥4,282,000

- 産後ケアバトン制度の運営および認知促進活動
- 教室がない地域での講座開催
- 啓発リーフの普及活動
- 法人向け復職支援プログラムの普及活動
- 自治体向け提案活動　など

■ 養成事業　¥1,861,753

- 産後セルフケアインストラクター11期養成コース開催

■ 研究開発事業　¥1,262,500

- マドレ式対話の場づくりプロジェクト運営

マドレボニータは、東京マラソン2020チャリティ事業の寄付先団体です。
▶東京マラソン2020チャリティ公式ウェブサイト https://www.marathon.tokyo/charity/ ▶マドレボニータ特設サイト　https://www.madrebonita.com/marathon

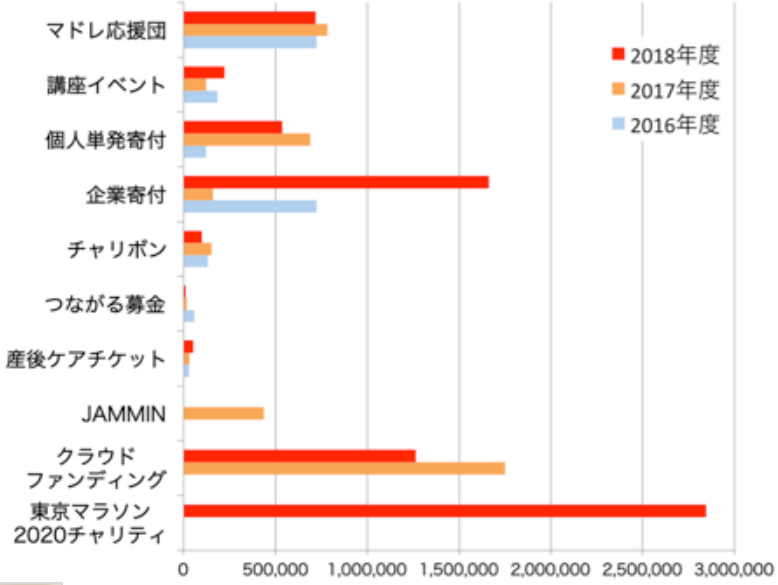
〔事業報告〕マドレ基金　①寄付全体

■ マドレ基金寄付ルートの内訳

内訳	金額	構成比
東京マラソン2020チャリティ	2,844,710 円	38.4%
企業寄付	1,662,400 円	22.4%
クラウドファンディング	1,262,500 円	17.0%
マドレ応援団	718,000 円	9.7%
個人単発寄付	535,622 円	7.2%
講座・イベントからの寄付	220,831 円	3.0%
チャリボン	99,860 円	1.3%
産後ケアチケット未使用分	51,630 円	0.7%
つながる募金	10,700 円	0.1%
合計	**7,406,253 円**	

※西友様からの「マドレ基金」への助成、及びGoogleインパクトチャレンジ助成、情報労連様の「愛の基金」助成は「助成金」のため、上記金額には含みません。
※クラウドファンディング（Readyfor)の寄付額4,447,500円のうち、3,185,000円は2019年度の養成事業収益として計上し　残りの1,262,500円を2018年度研究開発事業への寄付として計上しています。

■ 寄付ルート内訳別の推移



■ 企業からのご寄付・助成

ご支援に厚く御礼申し上げます。

・合同会社西友さま
・情報労連さま「愛の基金」
・lululemonさま
・久光製薬株式会社さま
・MS&ADゆにぞんスマイルクラブさま
・ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会さま

▲ジョンソン・エンド・ジョンソン
Donate a Photoプログラム

2019年度 活動計画

より多くの方にマンスリーサポーターとして応援いただけるよう働きかけてまいります。ご支援いただける企業・団体の情報提供やご推薦にも引き続きご協力いただければ幸いです。

マドレボニータは、東京マラソン2020チャリティ事業の寄付先団体です。
▶東京マラソン2020チャリティ公式ウェブサイト https://www.marathon.tokyo/charity/
▶マドレボニータ特設サイト　https://www.madrebonita.com/marathon

〔事業報告〕マドレ基金　②産後ケアバトン制度

2018年度 活動報告

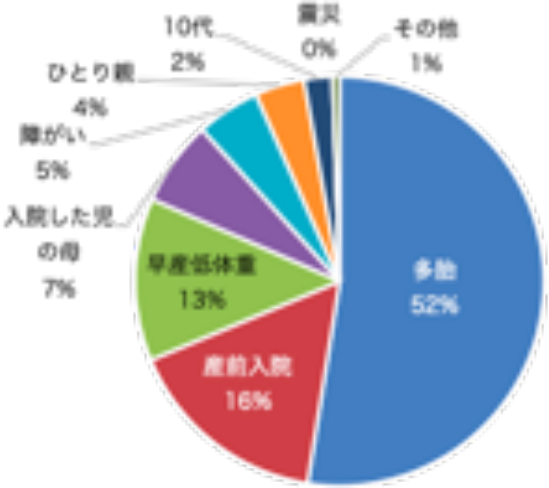
産後ケアバトン制度は、よりサポートが必要な母たちに「産後ケア教室」の受講料を全額補助する制度です。加えて、教室受講にあたり介助が必要な方（主に多胎児の母）はご希望に応じて介助ボランティアによるサポートを受けられます。2018年度、介助ボランティアありでの利用組数は過去最高となりました。2011年の制度開始からの累計支援組数が1,000組を超えました。
期間中、合同会社西友さま「社会貢献活動助成プログラム」の一環として「産後ケアバトン制度」への助成をいただきました。

年間支援組数 179組
うち介助ボランティアあり 84組
受講者に占める制度利用者割合は
8.45%

累計支援組数 1,110組

■ 累計支援組数の推移

■ 事由別比率



2019年度 活動計画

西友さまの支援は2019年12月コースまでとなります。そのため以降の運営資金確保のファンドレイジングに2018年度より取り組んできました。結果、東京マラソン2020チャリティによる寄付金、ジョンソン・エンド・ジョンソン様のDonate a Photoによる寄付金を主たる資金として、制度継続が可能な見込みとなりました。

マドレボニータは、東京マラソン2020チャリティ事業の寄付先団体です。
▶東京マラソン2020チャリティ公式ウェブサイト https://www.marathon.tokyo/charity/ ▶マドレボニータ特設サイト https://www.madrebonita.com/marathon

〔事業報告〕マドレ基金　②産後ケアバトン制度

産後ケアバトン制度ご利用者の声

子供が居ることで制限を感じる時もありましたが、多胎児であっても周りに助けて頂いたりすることで、制限を超え色んな経験が出来ることを体感、実感しました。
2人の乳児と一緒に身体を動かしたい！という諦めかけていた欲求が満たされ、産後中々目を向けることのなかった自分自身と向き合い、とても充実した貴重な時間を過ごすことができました。
この様な支援をして頂き、機会に巡り会えたことに感謝いたします。ありがとうございました。
(2019年6月 御茶ノ水・神保町教室 M.S.さま【多胎児の母】)

私のように子供の病気や障害のあるお母さんに向けたケアはまだまだ不足していると思っています。健常児のお子さん以上に手のかかる子供を育てるのは本当に心も身体も良い時と悪い時を行ったり来たりします。私も子供の病状が悪い時は病んでしまいます。
そんな時に身体を動かすことや自分の気持ちを表現することを知っているかどうか、が本当に大事なことだと思います。
たくさんの方にマドレボニータの産後ケア教室を利用して、自分も家族も大切にしてほしいと思います。
(2019年2月 押上教室 田代 亜沙美さま【障がいのある児の母】)

この制度があることを必要な方に知らせるために

産後ケアバトン制度のチラシを配布しております。

■ 右のURLからダウンロードしていただけます。https://goo.gl/jLk8wY
　ご紹介したい方にぜひお渡しください。　　➡QRコードはこちら

■ 企業・病院・自治体などでの配布協力先を随時募集しています。
　ご紹介もお待ちしております。

■ 個人の方でもまとまった数の配布をいただける場合は事務局までご連絡くださいませ。

産後ケアバトン制度運用のためのご支援をお願いいたします

産後ケアバトン制度で1組の親子を支援するのには約22,000円（介助ありの場合は約44,000円）必要です。
制度を継続していくために、法人・個人の方からの助成・寄付をお願いいたします。

・企業のCSR部門さまへの紹介ができる　・お勤め先にNPOなどへの支援制度があり、社員として支援先を推薦できる
⇒ぜひマドレボニータ事務局へご一報ください！

〔事業報告〕広報

メディア掲載実績

Web	13件
雑誌	4件
テレビ	3件
ラジオ	3件
書籍	1件
新聞	3件
計	27件

「子どもが第一」という圧力を超えて、母親に産後ケアが必要な理由

「産後ケアをすべての家族に」マドレボニータ・吉岡マコインタビュー番外編

岡田 梨恵　2019/01/10　コメント

「産後は赤ちゃんを抱っこし続けるので、腹筋や持久力が必要ですよ！」

フロアにリズムの良い音楽が流れ出すと、インストラクターがバランスボールに乗って

今年創立20周年を迎えた産後ケアのパイオニア、認定NPO法人マドレボニータ(以下「マドレボニータ」)。デロイト トーマツ コンサルティング合同会社(以下「デロイト」)による「ソーシャル・イノベーション・パイオニア(以下「パイオニア」)」プログラム第2期のパイオニア団体に選出されました。当プログラムは、国連が採択した持続可能な開発目標(SDGs)に関連する特定の課題分野において、高いビジョンを掲げ、革新的な取り組みを行っている非営利団体に対して、デロイトが通常のビジネスと同等の品質とコミットメントを持って専属チームによるコンサルティングを無償で提供する取り組みです。この取り組みにより、各団体の成長をさらに加速すると共に、そこから生み出される社会へのインパクトを最大化することを目指します。

2018年度の会計報告 総評

2018年度は大型の助成金の終了などが迫っていたなか、資金獲得に向け様々な取り組みを行った一年となりました。

東京マラソン2020チャリティ、クラウドファンディング、Donate a Photo支援プログラム、その他複数の企業によるご寄付など、会員の皆さま、マドレ応援団の皆さま、ご支援いただいている皆さまのご協力で実現したことが多くありました。

収益を見ると事業収益が予算未達であり、今後ますます注力する必要があります。
資金繰りがまだ安定しているとは言えない状況のため、2019年度の予算は事業内の内訳を細分化しないことにより予実分析を省力化し、将来予測や事業推進に力を入れていきます。

活動計算書（2018年10月1日～2019年9月30日）

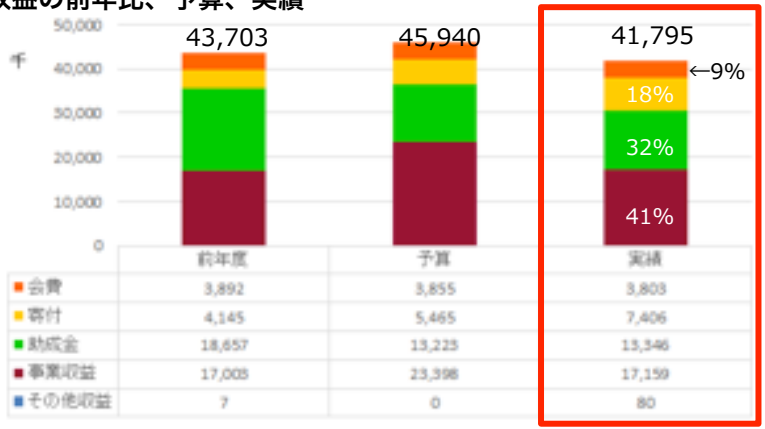
（単位：円）

経常収益		
1．受取会費		3,803,000
2．受取寄付金		7,406,253
3．受取助成金		13,345,985
4．事業収益		17,159,148
5．その他収益		80,145
経常収益　計		41,794,531
経常費用		
1．事業費	人件費	14,488,087
	その他費用	21,349,414
2．管理費	人件費	4,401,155
	その他費用	1,765,836
経常費用　計		42,004,492
当期経常増減額		-209,961

マドレボニータは、東京マラソン2020チャリティ事業の寄付先団体です。
▶東京マラソン2020チャリティ公式ウェブサイト https://www.marathon.tokyo/charity/ ▶マドレボニータ特設サイト https://www.madrebonita.com/marathon

〔会計報告〕収益・費用の内訳

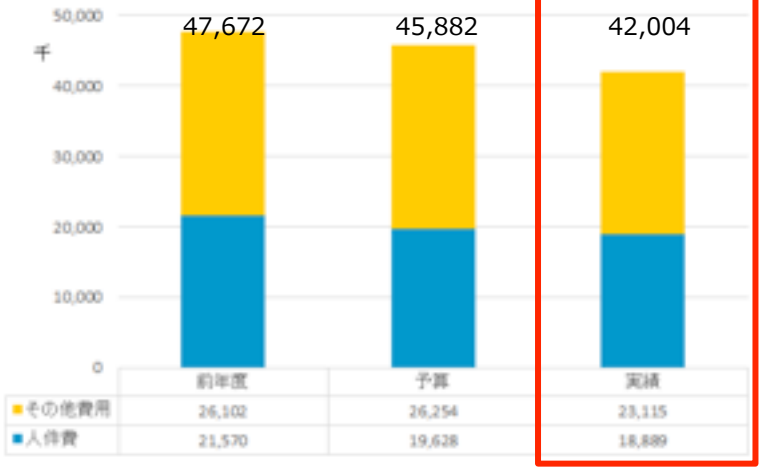
収益の前年比、予算、実績



	前年度	予算	実績
会費	3,892	3,855	3,803
寄付	4,145	5,465	7,406
助成金	18,657	13,223	13,346
事業収益	17,003	23,398	17,159
その他収益	7	0	80

寄付については、金額、収益に占める割合とも、ここ5年間で最も高く、クラウドファウンディングの成功や東京マラソン2020チャリティの支援先団体に選定されたことが大きく影響しました。
ただ、これらは単発または単年度の資金調達であり、使途は限られています。
安定した財政基盤をつくるためには、収益構造の見直しとともに、「マドレ応援団」のような継続的なご寄付を増やしていくことが必要だと考えています。

費用の前年比、予算、実績



	前年度	予算	実績
その他費用	26,102	26,254	23,115
人件費	21,570	19,628	18,889

・費用は、人件費、その他費用ともに、予算比、前年度比マイナスでした。これは事業収益が予算を下回ったことによるものです。
・クラウドファンディングや周年行事の実施には、企画段階から多くのボランティアメンバーが参画してくださったおかげで当初の想定を超える充実した活動内容となり、大きな成果につながりました。参画してくださった皆様に感謝申し上げます。

マドレボニータは、東京マラソン2020チャリティ事業の寄付先団体です。
▶東京マラソン2020チャリティ公式ウェブサイト https://www.marathon.tokyo/charity/
▶マドレボニータ特設サイト https://www.madrebonita.com/marathon

2018年度に実施した「『すべての家族に産後ケア』写真で応援キャンペーン」にお寄せいただいた写真です。

ここまでお読みいただき、ありがとうございました。
新年度も「すべての家族に産後ケア」の実現に向け活動を展開してまいります。ぜひ、ご支援をお願いいたします。

マドレボニータは認定NPO法人です。寄付された方は、確定申告により寄付金控除等の税制優遇を受けることができます。

※対象：単発寄付、継続寄付（マドレ応援団）、賛助会員費

・所得税減税のほか、自治体によって住民税が減税となる場合もあり最大50%の減税となります。
・相続財産寄付・遺贈寄付は非課税となります。
・法人の場合、法人税を軽減させる「寄付金損金算入枠」が3-5倍になります。
　また、一般枠と特別枠の合計額まで損金にできます。

ご不明点やご質問はマドレボニータ事務局（info@madrebonita.com）までお問い合わせください。

■ マドレ応援団（継続寄付）

・クレジットカードで毎月一定額をご寄付いただく仕組みです。
・毎月のメールレター、会報、年次報告書、限定Facebookグループで活動情報を随時ご報告。
・右のQRコードまたは以下のWebサイトよりお申し込みください。

https://www.madrebonita.com/donate-monthly

マドレ応援団

■ いつでも好きな額で（単発寄付）

・銀行振込

ゆうちょ銀行　10190　37231
(他行からのお振込は
〇一八 店（ゼロイチハチ店）普通　0003723)
三井住友銀行　永福町支店　普通　7231754
口座名義　特定非営利活動法人マドレボニータ

・クレジットカードの方は右のQRコードまたは以下のWebサイトよりお申し込みください。

https://www.madrebonita.com/donation-offers

単発のご寄付

発行人　認定特定非営利活動(認定NPO)法人　マドレボニータ
住　所　〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1－15－9 シルク恵比寿403
公式サイト　http://www.madrebonita.com
メール　info@madrebonita.com（事務局）

Copyright © Madre Bonita All right reserved.